

(C) WPI / DERWENT

AN - 1982-80265E [38]

AP - JP19810018318 19810210

CPY - MITN

DC - E17

DR - 0386-S 0437-U 0460-U 0836-U 1714-S

FS - CPI

IC - B01J27/02 ; C07B61/00 ; C07C51/48 ; C07C59/01

MC - E10-C04D E10-C04G E10-F02C E10-G02H E32-A

M3 - [01] H4 H401 H481 H8 J0 J011 J1 J171 M280 M313 M321 M331 M342 M349
M381 M391 M416 M620 M720 M903 N164 N511 N512 N513
- [02] J5 J581 M210 M211 M212 M214 M232 M262 M282 M320 M416 M620 M781
M903 M910 Q508 Q615 R023
- [03] H7 H721 J0 J011 J171 J271 M210 M211 M212 M213 M214 M215 M216 M220
M221 M222 M223 M224 M225 M226 M231 M232 M233 M262 M272 M281 M320 M416
M781 M903 Q508 Q615 R023

PA - (MITN) MITSUBISHI GAS CHEM IND CO LTD

PN - JP57131736 A 19820814 DW198238 004pp

- JP1032813B B 19890710 DW198931 000pp

PR - JP19810018318 19810210

XIC - B01J-027/02 ; C07B-061/00 ; C07C-051/48 ; C07C-059/01

AB - J57131736 Process comprises adding extracting agent to reaction soln.

contg. alpha-hydroxyethylacetic acid (I) and acidic ammonium sulphate
obtd. by reacting acetonecyanhydrin with sulphuric acid and water and
hydrolysing the prod. to extract (I) and to leave acidic ammonium
sulphate in the aq. phase.- Pref. to the reaction soln. contg. (I), acidic ammonium sulphate and
free sulphuric acid obtd. as above, alkali and extracting agent are
added to neutralise sulphuric acid and to extract (I) at the same
time. The reaction soln. is introduced from the middle of the
extractor, the extracting agent is introduced from the bottom and
water and alkali aq. soln. are introduced from the top of extractor,
to effect countercurrent extrn.

- Prod. is useful as raw material for methacrylic acid mfr.

IW - SEPARATE ALPHA HYDROXY ETHYL ACETIC ACID ADD EXTRACT MIXTURE ACIDIC
AMMONIUM SULPHATE HYDROLYSISIKW - SEPARATE ALPHA HYDROXY ETHYL ACETIC ACID ADD EXTRACT MIXTURE ACIDIC
AMMONIUM SULPHATE HYDROLYSIS

NC - 001

OPD - 1981-02-10

ORD - 1982-08-14

PAW - (MITN) MITSUBISHI GAS CHEM IND CO LTD

TI - Sepg. alpha hydroxy ethyl acetic acid - by adding extractant to its
mixt. with acidic ammonium sulphate and hydrolysing

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭57-131736

⑮ Int. Cl.³
C 07 C 59/01
51/48

識別記号

府内整理番号
7188-4H

⑯ 公開 昭和57年(1982)8月14日

発明の数 3
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑯ α-オキシイソ酪酸の分離法

⑯ 特 願 昭56-18318

⑯ 出 願 昭56(1981)2月10日

⑯ 発明者 飯田允男

新潟市松浜町3396-27

⑯ 発明者 笠原健一

新潟市山二つ1038

⑯ 発明者 伊崎寛正

新潟市松浜町3412-2

⑯ 出願人 三菱瓦斯化学株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目5
番2号

明細書

1. 発明の名称

α-オキシイソ酪酸の分離法

2. 審査請求の範囲

1) アセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させたのち加水分解して得たα-オキシイソ酪酸及び酸性硫酸アンモニウムを含有する反応液に抽剤を加え、α-オキシイソ酪酸を抽剤相に抽出し、酸性硫酸アンモニウムを水相に残存せしめることを特徴とするα-オキシイソ酪酸の分離法

2) アセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させたのち加水分解して得たα-オキシイソ酪酸、酸性硫酸アンモニウム及び遊離の硫酸を含有する反応液にアルカリ及び抽剤を加え、遊離の硫酸を中和すると共にα-オキシイソ酪酸を抽剤相に抽出する事を特徴とするα-オキシイソ酪酸の分離法

3) アセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反

応させたのち加水分解して得たα-オキシイソ酪酸、酸性硫酸アンモニウム及び場合により遊離の硫酸を含有する反応液に抽剤を加え、α-オキシイソ酪酸を抽出分離する方法において、抽出塔の中段付近より上記反応液を導入し、塔底部より抽剤を導入し、且つ塔頂横管部より水又はアルカリ水溶液を導入して向流抽出を行なうことを特徴とするα-オキシイソ酪酸の分離法

3. 発明の詳細な説明

本発明はアセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させたのち加水分解して得たα-オキシイソ酪酸、酸性硫酸アンモニウム及び場合により遊離の硫酸を含有する反応液からα-オキシイソ酪酸を分離する方法に関する。

α-オキシイソ酪酸は触媒存在下に加熱、脱水することにより容易にメタクリル酸になる。メタクリル酸は従来アセトンシアンヒドリンを硫酸と混合し、アミド化反応を経て加水分解によりメタクリル酸となるが、この過程において

の優位性に分離することが必要である。しかしローオキシソ酸は水溶性が非常に大であり、共存する酸性硫酸アンモニウムの塩析効果を利用した分液分離は困難であり、又仮りに分液分離しても得られる有機相中には酸性硫酸アンモニウムの混入量が大となり次工程に悪影響を与える。

本発明はかかる問題点を解消したローオキシソ酸と酸性硫酸アンモニウムの分離方法に関するもので、アセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させたのち加水分解してローオキシソ酸を得、これを加熱脱水してメタクリル酸とする方法はアセトンシアンヒドリンから収率良くメタクリル酸を得ることが出来すぐれた方法であるが、ローオキシソ酸と同時に酸性硫酸アンモニウムが生成し、これの共存下に加熱脱水反応を行なうときはローオキシソ酸の分解を起しメタクリル酸の収率を低下させるので、ローオキシソ酸と酸性硫酸アンモニウムは加水分解反応

硫酸アンモニウムを水相に残存せしめる方法、及び上記の方法において抽出塔の中段付近に上記加水分解後の反応液を導入し、塔底部より抽剤を導入し、且つ塔頂濃縮部より水又はアルカリ水溶液を導入して逆流抽出を行なう方法である。

本発明においてアセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させてローオキシソ酸を得るには、アセトンシアンヒドリンに対する硫酸のモル比0.5~2.0、好ましくは0.9~1.2、アセトンシアンヒドリンに対する水のモル比0.2~1.0、好ましくは0.4~0.6、反応温度0~80°C、好ましくは40~60°Cの条件下反応させたのち、温度60~130°C、好ましくは80~120°Cでアセトンシアンヒドリンに対し2倍モル以上、好ましくは3~8モルの水を加え加水分解すれば良い。

本発明においては以上の反応により得られたローオキシソ酸及び酸性硫酸アンモニウムを含有する反応液に抽剤を加え、ローオキシソ

ソ酸を抽剤相に抽出し、酸性硫酸アンモニウムを水相に残存せしめることによりローオキシソ酸を反応液から分離する。又反応液中に遊離の硫酸を含有する場合には反応液にアルカリ及び抽剤を加え遊離の硫酸を中和すると共にローオキシソ酸を抽剤相に抽出し、酸性硫酸アンモニウムを水相に残存せしめる事によりローオキシソ酸を反応液から分離する。即ち反応液中に遊離の硫酸が含まれている場合には遊離の硫酸をアンモニヤあるいは無機のアルカリ性物質により中和する事により、ローオキシソ酸の抽剤相中への分配係数が飛躍的に増大する。中和の方法としてはあらかじめ反応液をアルカリ処理後抽出操作を行なつても良く、又抽出時にアルカリ性水溶液を加え、抽出操作とアルカリ洗浄操作を同時に行なつても良い。

本発明において使用し得る抽剤は水性相からローオキシソ酸を選択的に抽出し得るものであり、これらを例示すればメタクリル酸、メタクリル酸エステル、あるいはこれらとベンゼ

ン、トルエン、キシレン等の芳香族炭化水素、シクロヘキサン等の脂環式炭化水素、ユーブタン、ロー-ヘキサン等の脂肪族炭化水素との混合物、エチル、プロピル、ブチル、アミル等の低級炭化水素基を有するエーテル類及びケトン類等であり、特にメタクリル酸、メタクリル酸エステル、炭化水素とメタクリル酸の混合物、メチルエチルケトン及びメチルイソブチルケトンのケトンが分配係数が大きく好ましい。

本発明における α -オキシイソ酸の抽出は温度0~100°Cで反応液中の α -オキシイソ酸に対し0.5~2重量倍の割合で抽剤を接触させることにより行なう。

本発明における抽出操作は回分式でも行なうことが出来るが向流抽出塔を用い連続式で行なうことが好ましい。抽出塔としてはRDC塔(Rotary Disc Contactor)、往復回転式抽出塔、交互流動多孔板式抽出塔、ミキサー-セトラー型抽出器等の抽出装置を使用することが出来、塔の中段付近より反応液を、塔底部より抽剤を

4.6 gを添加し、大気圧下温度70°Cで充分振とうした後静置し抽剤相と水相とに相分離した。この液を分析し α -オキシイソ酸及び酸性硫酸アンモニウムの量を求めそれぞれの分配係数を調べた結果次の如くであつた。

第1表

抽 剤	分 配 保 数	
	α -オキシイソ酸	酸性硫酸アンモニウム
ベンゼン	0.07	1×10^{-3} 以下
トルエン	0.04	1×10^{-3} 以下
メタアクリル酸	4.5	2.2×10^{-2}
ベンゼン-メタアクリル酸等量混合物	3.3	8.0×10^{-3}
トルエン-メタアクリル酸等量混合物	2.3	7.2×10^{-3}

実施例 2

実施例1と同じ反応液に第2表に示した抽剤を添加し、大気圧下温度50°Cで実施例1と同

導入して向流抽出を行なうが、特に塔頂付近(過塩基部)より水又はアルカリ水溶液を添加するのが α -オキシイソ酸と酸性硫酸アンモニウムの分離効率を高める上で好適である。この場合の水の添加割合は抽出相に対し0.05~0.5重量倍程度が好ましい。

本発明によればアセトンシアンヒドリン、硫酸及び水を反応させたのち加水分解して得た α -オキシイソ酸及び酸性硫酸アンモニウムを含有する反応液から α -オキシイソ酸を選択的に分離することが可能であり、 α -オキシイソ酸を経由するメタクリル酸の製造法の工業化に極めて有用である。

実施例 1

アセトンシアンヒドリン、9.8%硫酸及び水を反応させた後加水分解して得た反応液(α -オキシイソ酸 2.8重量%、酸性硫酸アンモニウム 5.0重量%及び硫酸 2.7重量%を含む水溶液)100gに第1表に示した抽剤各

様に分配係数を調べた。

その結果を第2表に示す。

第2表

抽 剤	抽剤 g 反応液 g	分 配 保 数	
		α -オキシイソ酸	酸性硫酸アンモニウム
イソプロピルエーテル	0.46	1.53	1.5×10^{-3}
ブチルエーテル	0.46	0.54	2.8×10^{-3}
メチルエチルケトン	0.66	1.12	1.5×10^{-3}
メチルイソブチルケトン	0.66	1.75	4.6×10^{-3}

実施例 3

実施例1の反応液100gに2.5%アンモニヤ水溶液2gを添加し過塩基を中和したのち第3表に示した抽剤4.6gを添加し温度50°Cで充分振とうした後静置し、抽剤相と水相とに相分離した。この液を分析し α -オキシイソ酸及び酸性硫酸アンモニウムの量を求めそれ

その分配係数を調べた結果の如くであつた。

つた。

第 3 表

抽 剤	分 配 保 敷	
	α -オキシイソ酪酸	酸性 優 酸 アンモニウム
ベンゼン-メタアクリル酸 等 量 混 合 物	5.2	9×10^{-3}
メチルイソブチルケトン	6.2	9×10^{-3}

第 4 表

	抽 剤 相	抽 残 相
合 計	8.94 kg/H	4.08 kg/H
α -オキシイソ酪酸	1.96	0.02
水	0.99	1.35
酸性 優 酸 アンモニウム	0.002	2.70
メチルイソブチルケトン	5.98	0.02

実験例 4

向流多段抽出塔（回収部 18 段，濃縮部 8 段）
の中段よりアセトン・アンヒドリン・酸酸及び
水を反応させて得られた反応液（ α -オキシイ
ソ酪酸 3.3 重量%，酸性 優 酸 アンモニウム
4.5 重量%，水 2.2 重量%）6 kg/H，抽出
塔塔底よりメチルイソブチルケトン 6 kg/H，
塔頂より水 1.02 kg/H をそれぞれ供給し，
塔頂より抽剤相，塔底より抽残相（水相）を抜
き出し向流抽出を行なつた結果は次の如くであ